

令和2年 第1回定例会

一 般 質 問

[個 人 質 問]

印 西 市 議 会

順 番	議員番号	議 員 名	質問方式
1	7 番	小 川 利 彦	一問一答方式
2	1 番	柿 原 健 一	一問一答方式
3	4 番	松 本 有利子	一問一答方式
4	1 1 番	浅 沼 美弥子	一問一答方式
5	8 番	玉 木 実	登壇一問一答方式
6	2 番	梶 原 友 雄	一問一答方式
7	1 8 番	軍 司 俊 紀	登壇一問一答方式
8	6 番	稲 葉 健	登壇一問一答方式
9	9 番	米 井 重 行	登壇一問一答方式
1 0	5 番	伊 藤 真 一	登壇一問一答方式
1 1	1 6 番	増 田 葉 子	一問一答方式
1 2	1 7 番	松 尾 榮 子	登壇一問一答方式

質 問 1

質問者 7番 小 川 利 彦

1 自然災害発生後の対応について

昨年秋の台風や暴風雨により、印西市内でも多くの被害が発生したもので、前定例会の一般質問では多くの議員が質問されておりました。今回も引き続きまして、公助となる部分について伺います。

自然災害発生後の市の対応と市の備えについて伺います。

- (1) 昨年秋の自然災害発生後の検証について
- (2) 国・県との連携について
- (3) 公共施設の修繕状況について
- (4) 道路排水等の排水について
- (5) 今後の対応について

2 学校給食事業について

牧の原学校給食センターの改修工事期間中の給食提供に注目されつつある現状と、これからの学校給食センターについて伺います。

- (1) 牧の原学校給食センター改修工事中の給食について
- (2) 食育という部分について
- (3) 防災食育センターについて
- (4) 今後の対応について

3 救命指導・AEDの普及と実施率向上について

小・中学生がAEDについて学習する機会や、救命率向上となる学習をすることが増加傾向にあります。印西市としての取り組みについて伺います。

- (1) AED設置の問題点について
- (2) 救命指導・講習のあり方について
- (3) 児童・生徒の命を守るための指導について
- (4) 今後の対応について

質 問 2

質問者 1番 柿原健一

1 道路管理者の管理瑕疵のない対応について

- (1) 道路パトロールの頻度とチェック項目について伺う
- (2) 改善必要箇所が国道・県道・公安委員会の責任にかかる場合は、どのように対応しているか
- (3) 市道の白線（センターライン・外側線・境界線・車線）を修復する基準のようなものはあるか
- (4) 沿道からはみ出した樹木や竹あるいは倒れた樹木や竹を確認した場合の対応を伺う
- (5) 崩土の危険性の予兆がある沿道の場合には、どのように対応するのか

2 投票区あるいは投票所の見直しについて

- (1) 現在の投票区と投票所は何年前に設定され、設定の基準はあるのか
- (2) 設定当初と現在で、人口増減が著しい地区を伺う
- (3) 人口増減が著しい地区や投票所が遠いとの声がある地区において、変化を吸収するために検討されていることはあるか
- (4) 今後、投票区の変更または投票所の移設などの検討が必要と考えるが、その点に関し選挙管理委員会の見解を伺う

3 印西市花火大会について

- (1) 今後、花火大会の計画はあるか伺う
- (2) 花火大会における「情報収集力・予見対応力・組織力・即応対応力・決定力」等は、災害時の対応において市民全員を巻き込んだ訓練の機会であるとも考えられるが、自然災害への組織力アップの観点から、花火大会実施を計画出来ないか伺う

質 問 3

質問者 4番 松 本 有利子

1 情報化事業について

将来都市像を「ひと まち 自然 笑顔が輝く いんざい」と設定している当市において、平成29年度の市民満足度調査では約8割が住みやすいと感じているとの回答があります。その理由の一つは市が個々の政策を堅実に実行しているからだと考えます。

しかし一方で、情報化政策においては、市が新しい試みを取り入れるのに慎重になるが故に時間をかけすぎている部分もあると感じます。現在、国が目指すべき未来社会の姿として、「Society 5.0」を提唱しています。今までは人がサイバー空間にアクセスしてデータの入手、分析を行ってききましたが知識や情報が共有されず、分野横断的な連携が不十分であるという問題がありました。人が行う能力に限界があるため、あふれる情報から必要な情報を見つけて分析する作業が負担であったり、年齢や障害などによる労働や行動範囲に制約がありました。「Society 5.0」ではAIやセンサー情報等により自動でデータの入手、分析が行われます。データ活用により情報が見える化され共有化されます。またロボットや自動運転で人の可能性が広がります。IoTやAI等の最新技術を導入し、「Society 5.0」が活発化すれば単純作業や重労働の負担が減り、世代性別を問わず働く環境が整備され、人手不足も解消されます。最終的には少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服され、一人一人が快適で活躍できる社会が実現します。

既に各機関が連携し官民一体となり「Society 5.0」の実現を目指しています。この目まぐるしく進歩する情報技術や変化する社会の中で、市がそのスピードについていくには、国の目指す社会への理解、そして柔軟な考えを加味した事業の計画、取り組み、見直しが必要です。そこで質問します。

(1) 第4次情報化計画について

- ①全体の進捗状況について
- ②課題について
- ③新しい取り組みについて

(2) 次期総合計画について

- ①情報化事業に関連することについて

(3) 各分野の情報化事業について

- ①見直しのあった事業について

- ②災害時の情報について
- ③子育て支援について
- ④医療・福祉情報について
- ⑤生涯学習環境について
- ⑥市民との協働について
- ⑦ICTを活用した環境保全について
- ⑧公開情報について
- ⑨収納・支払いの電子化促進について
- ⑩窓口サービスについて
- ⑪通信環境について
- ⑫ICT教育環境について
- ⑬情報セキュリティ対策について

2 保育園・幼稚園に関することについて

- (1) 実費徴収費について
 - ①食材料費の上限の設定について
 - ②実費徴収費の公開について
- (2) 職員の処遇改善について
- (3) 医療的ケア児について
 - ①幼稚園での受け入れ態勢について
 - ②保育園での受け入れ態勢について
- (4) 通園路の安全対策について

質 問 4

質問者 11番 浅 沼 美弥子

1 健康寿命の延伸

- (1) 国民健康保険の「保険者努力支援制度」について

「保険者努力支援制度」は、地域での病気・介護予防や健康づくりなどの実績により自治体へ交付金が配分される制度。国は20年度この自治体交付金を19年度比50%増という異例の増額を予定しているとのこと。介護や病気の予防促進施策を社会保障改革の柱と位置付けた取り組みであり、市も病気や介護予防施策の更なる拡充に取り組んでもらいたい

- ①保険者努力支援制度の概要

- ②当市が取り組んでいる対象事業
- ③実績から見る課題は
- ④取組項目の拡充など今後の取り組みについての考え

(2) フレイル健診について

厚生労働省は20年度から75歳以上を対象にフレイル健診を行う、市町村での検診や通いの場、かかりつけ医での受診の際に活用する。検診結果を基に保健師や管理栄養士からのきめ細かな助言や社会参加を促す取り組みが期待されるが、当市ではどのように対応するのか

- ①フレイル健診の内容
- ②検診の実施方法について
- ③健診後の取り組みについての考え

(3) 脳ドック助成対象の拡大

国民健康保険や後期高齢者医療保険の被保険者以外の市民にも脳ドックの助成をしてもらえないかとの声がある。

- ①実施している市町村の状況を把握しているか
- ②実施のメリット等
- ③助成制度創設の考えを伺う

2 被災者等支援の拡充

地球温暖化に伴った災害の頻発化・激甚化は、今後も市民の生命・生活を脅かすことが懸念される。現状の被災者支援策は十分か、弱者に寄り添った支援がされているか等を検討し、足りない支援策を整備していく考えがあるか伺う。

- (1) 罹災証明書のネット申請の導入を検討する考えはないか
- (2) 被災し住宅を失った市民で宿泊場所を確保できないものに対して応急的な宿泊所を提供できるよう検討してはどうか
- (3) 住民避難保険への加入を検討してはどうか

3 安全・安心をもっと

- (1) 独居高齢者等のための緊急通報装置について
 - ①設置状況
 - ②成果と課題
 - ③安全・安心をもっと高めるための機器を導入する考えはないか
- (2) 公園等に防犯カメラ等を併設した自動販売機の設置を検討できないか
 - ①導入自治体事例を把握しているか
 - ②必要な予算は
 - ③市内で設置に効果的な地域はあるか
 - ④導入について検討する考えはないか

4 市民サービスの向上と行財政改革

(1) 「おくやみ窓口」の設置

家族がなくなったのちに遺族が行う手続きは多岐にわたり負担は大きい。そこで手続きに必要な申請を手助けする「おくやみ窓口」を設置する自治体が増えている。当市にも設置するなど市民サービス向上を図ることはできないか。

- ①当市における現状のサービス状況
- ②「おくやみ窓口」の具体的取組事例を把握しているか
- ③今後の取り組みについて

(2) 「市税の使い道ポータルサイト」の活用

千葉市が開設している「市税の使い道ポータルサイト」。千葉市は、この仕組みを他自治体へ無償提供しているとのこと。これを活用することで、行政コストの見える化、市民への税金への使い道への理解を深める取り組みができるのではないか。

- ①「市税の使い道ポータルサイト」の概要
- ②市や市民にどのような効果が期待できるのか
- ③活用における課題（財政負担はあるか等）
- ④今後の活用についての見解

(3) 不用額について

不用額については、経費削減の執行努力による場合もあり、直ちに予算の執行が適切ではないといった見方をするのは適当ではない。しかし、不用額が発生する状況が、例えば予算の過大見積もりとなれば、本来必要な事業への予算配分の妨げとなることも考えられる。不用額に着目し、限られた財源が市民ニーズに応え、市民サービスの向上に最大限活用されるようにする必要があるのでないか。

- ①不用額が生じる理由
- ②不用額の状況
- ③類似自治体等との比較をしたことはあるか
- ④不用額が多い部課等
- ⑤不用額を減らす工夫は可能か（事業の予算編成時、不用額（決算実績）を踏まえた見積もり等）
- ⑥今後不用額に着目した分析等を行う考えはないか

5 住宅街の街路樹整備と管理

(1) 老朽化した街路樹に対する対応状況に課題はないか

- ①市民等からの要望・苦情はどのようなものか
- ②住宅街における街路樹の伐採の状況
- ③伐採後の課題は

(2) 開発による住宅地の拡大に伴う街路樹整備の方針

宅地開発が進む当市において、市も予測できない状況で住宅地が拡大している地域があるのではないかと。そういった地域の住宅地拡大に伴う街路樹整備の取り組みについて伺う。

- ①市民からの要望等があるか
- ②整備方針等今後の取り組み

質 問 5

質問者 8番 玉 木 実

1 過去2年間の行政組織変更後の検証について

(1) 健康福祉部より分離した「健康子ども部」の検証

- ①当初の目的と現在の問題点
- ②組織編成後の人員体制は充足したか
- ③児童虐待対策はいかに

(2) オリンピック・パラリンピック担当の検証について

- ①当初の目的と現在の問題点
- ②組織編成後の人員体制は
- ③総務部より企画財政部へ組織編成したが今後はどうなるのか

(3) スポーツ振興課が教育部より、健康子ども部への移行後の取り組み成果と問題点は

2 印西市において、係長制度の導入目的は

- (1) 係長・課長補佐・主幹・副主幹との比較を問う
- (2) 係長職の役職手当はいかに
- (3) 係長を任命して、初期の導入目的の成果と今後の問題点は

質 問 6

質問者 2番 梶 原 友 雄

- 1 新型コロナウイルスに対する対応について
 - (1) 市役所への1日の来庁人数は
 - (2) 対応はどの様に行っているのか
 - (3) 学童への注意喚起はどの様に行っているのか
 - (4) 対策本部は立ち上げたのか

- 2 教職員の働き方改革について
 - (1) 変形労働時間制度導入に際しての問題点は
 - (2) 業務削減と人員の増員について

- 3 虐待防止について
 - (1) 出産前後の母子サポートについて
 - (2) 児童相談所との連携について
 - (3) 児童相談所の設置について

- 4 公園のトイレ設置について
 - (1) トイレが設置されている公園は何か所あるのか

質 問 7

質問者 18番 軍 司 俊 紀

- 1 地域包括ケアシステムの具現化のために
日本では人生100年時代を迎え、世界に例を見ない高齢化が進展している。このため医療政策のありかたも問い直されており、「治す治療」から「治し支える医療」に転換することが求められている。印西市をとりまく環境も例外ではなく、在宅医療と介護の連携が重要となってきた。「いつまでも地域で暮らすことができる社会」づくりのために、以下の項目について、印西市はどのような方針をもっているのか確認する。
 - (1) 令和元年度には「在宅医療・介護連携会議」が2回開催され、「多職種

連携研修企画ワーキング」も開催されている。

①在宅医療の実現のためには在宅療養支援診療所が不可欠であるが、医師にかかる負担も多大である。印西市は在宅医療体制の構築について、どのように協力、取り組んでいくのか

②医療機関アンケートをどのように分析しているのか

(2)「人生の最終段階をどう過ごしたいですか？」というテーマで2月1日に講演会が開催された。

①「人生会議」についての啓発をどのように考えているのか

②「在宅で看取る」ことは、印西市民は可能か

2 子ども・子育て支援について

(1) 令和2年4月の入園申込みについて、2月3日現在で市内認可保育園(公立・私立)・認定こども園・小規模保育事業の空き状況が公表され、保留児童数が1歳児82名、2歳児44名となっている。今後、保留児童数を印西市は減らすことができるのか

(2) 牧の原第二学童の設置ニーズが高まっている

12月議会では、設置箇所等整備方法も含め、関係部局と引き続き協議して行きたい旨の回答を得たが、進展はあるのか

3 大規模災害に備えるための防災対策を

昨年秋の台風や大雨被害による市民生活への影響は多大であり、今後も起こりうることを考えると、備えておくことが必要不可欠だと考える。以下の2点について確認する。

(1) 災害時の備蓄について

①食料

②発電機や非常用バッテリーについて

③松山下公園へのアクセスについて

(2) 避難所運営の考えかたについて

①平時に行う避難所運営訓練について

②災害時の避難所運営について

③長期間の避難が必要とされた場合の設備・備品について

4 公共施設の配置計画について

印西市では公共施設適正配置アクションプラン案をとりまとめ、パブリックコメントを実施した。このアクションプランでは施設総量の適正化や維持管理費用の縮減にむけての取り組みが示されているが、いくつかの疑問点が残る。印西市の今後の公共施設のありかたを以下の点で問う。

- (1) 印西牧の原駅圏においては、牧の原出張所が民間施設内にあり、今後の方向性が示されていない。牧の原南地区においては、東の原地区で引き続き戸建て建設が進むと共に、駅圏という視点で考えると老朽化の進む滝野出張所（本埜ファミリア館）の集約化も記載があるが、今後の印西牧の原駅圏における公共施設配置はどのようにあるべきと考えているのか
- (2) 印旛日本医大駅の南側では「はじまりの街」として住宅開発が進んでいるが、一方では引き続き駅前の活性化が図られていないのが現状である。地域住民の一部から、小規模でも「商業施設」を望んでいたが、高齢化が進み、歩いて買い物ができない街になってしまうという危惧が寄せられる。東横インの開業を控える地区ではあるが、今後の公共施設の配置計画と共に「いには野地区のまちづくり」はどのようにあるべきと考えているのか

5 北総鉄道と印西市の関係について

北総鉄道では昨年12月27日に決算情報「2019年度上期決算について」を発表しました。その報道の中では、累積赤字は未だ55億円、有利子負債は687億円と依然として巨額という記載が読み取れるが、印西市はこの発表をどのように捉えているのか。

- (1) 2018年度上期決算発表と比較して累積赤字は26億円、有利子負債は33億円減っているのが数字として読み取れる。印西市は北総鉄道とどう向き合うのか
- (2) 利用者の利便性向上に向けて北総鉄道と意見交換されているか
- (3) 利用者の安全確保についてはどうか

6 印西牧の原駅圏の将来について

- (1) 人口の急増とともに交通量の増加が地区の会議で話題にのぼる。

①信号の設置について

- － 西の原公園南西側 丁字路
- － 牧の原四丁目と五丁目境界 交差点

県警では有識者会議で「信号機、標識の在り方」を検討しているようだが、人口が急増している地区における2か所の信号設置要望は地区や学校から強く求められている。

現状はどのようになっているのか

- ②原小学校の北側道路に対して、速度制限を求めているが、改善が図られていない。対応策の一つとして、信号機の問題もあると意見をいただくが、市や印西警察はどのように考えるのか。

また、信号のない横断歩道付近には駐車禁止を示すためにもポールが立っているが、違法駐車をしている車輛も目立つ。事故が起こる可能性が高い中で、印西市や印西警察はこの状況を十分に把握し、改善に努めよ

うとしているのか

- (2) 街びらきから25年を経過しようとしている牧の原南地区では街路樹の生育により、木の根が通路や公園の街路を盛り上げ、通行に注意を要する地点が目立つ。今後の高齢化を見据え、どのように改善をすすめていくのか

質 問 8

質問者 6番 稲 葉 健

1 児童生徒の通学時における安全対策について

- (1) 通学時における安全上の課題について
(2) スクールバスの運行について

2 ごみの軽減について

「第2次印西市ごみ減量計画」では、スローガンとしてアクション・いんざい・ダイエット700として1人1日あたり700g以下の排出量を目指していました。この計画ではごみの排出量を5年後には6%、10年後には10%減らすという目標を掲げていました。来年度が計画の最終年度となります。

平成30年度印西市一般廃棄物処理概要を元に市のゴミ減量計画の進捗状況について伺います。

(1) 家庭系と事業系をあわせたごみ排出量

- ①中間年度（平成27年度）の排出量と原単位の推移について
②平成30年度の排出量と原単位の推移について

(2) 家庭系のごみの排出量

- ①中間年度（平成27年度）の排出量と原単位の推移について
②平成30年度の排出量と原単位の推移について

(3) 事業系のごみの排出量

- ①中間年度（平成27年度）の排出量と原単位の推移について
②平成30年度の排出量と原単位の推移について

(4) 最終目標との乖離についてどのように考えるか

3 牛乳パックのリサイクルについて

- (1) 以前は学校給食の牛乳パックのリサイクルを行っていたが現在は市内の小中学校では焼却処分されている。いつから焼却処分されるようになったか
- (2) 焼却処分されるようになった理由は
- (3) 市としてリサイクルする考えはないか

4 ダブルケア対策について

- (1) 市として対策を今後どのようにすすめていくか

5 松山下公園総合体育館の使用について

- (1) 市が優先として使用するにはどのような場合があるか
- (2) リードの大会等優先的に使用するにはどのような条件があるか
- (3) 市内の団体が教育委員会や市の後援が得られた場合は使用には他にどのような制限があるか
- (4) 特定の団体の便宜をはかるケースはあるか

質 問 9

質問者 9番 米 井 重 行

1 市内、幹線道路の整備状況と管理について

- (1) コスモス道路未買収地
 - ①未買収地の取得状況
 - ②県との連携状況
 - ③取得地の台風被害の対応
- (2) 市道00-031号線、小林小学校から小林浅間地先までの道路整備及び用地の取得状況
 - ①未買収地の取得状況
 - ②今後の計画
- (3) 市道00-117号線、船尾地先から松崎地先までの区間の整備状況
 - ①未買収地の取得状況
 - ②今後の計画
- (4) 市道00-026号線、船尾地先から戸神地先までの進捗状況
 - ①進捗状況の確認

- 2 市内河川の整備状況
 - (1) 師戸川上流部、七軒屋から角田までの護岸整備
 - ①治水対策
 - ②市道25-012号線、台風被害の復旧状況
- 3 近年の選挙の総括
 - (1) 投票率の現状
 - ①年代別の投票率
 - ②地区別の投票率
 - (2) 期日前投票
 - ①成果と課題
- 4 学校へのICT環境の整備
 - (1) 市の考え
 - (2) ハード・ソフト面を踏まえ、今から市に出来る事
- 5 板倉市長の今後の考えを伺う
 - (1) 株式会社日本デキシー千葉工場跡地利用
 - (2) 小学校統廃合後の施設利用
 - (3) 千葉県消防広域化推進計画

質 問 10

質問者 5番 伊 藤 真 一

- 1 防災対策について

2019年の台風と千葉県豪雨により、印西市においても各所で様々な被害が発生しました。今回の経験を通じて、市の防災計画の見直しが求められております。

 - (1) 防災タイムラインの変更をどの様に考えているか
 - (2) 防災ラジオの導入検討についてどの様に考えているのか
 - (3) 避難所へ向かう移動手段についての考えはどうか
 - (4) 避難所となる場所の環境整備についての考えはどうか

2 国民健康保険税について

消費税増税で不況を引き起こしている中、高すぎる国保税に市民が悲鳴を上げています。高すぎる国保税は、市民の暮らしをくるしめているばかりでなく、命の危機に直結しています。

- (1) 国保税納税の状況についてどの様に考えているか
- (2) 国保税滞納者への対応についてどの様になっているか
- (3) 今後の国保税支払い困難者への対応をどの様に考えているのか

3 補聴器の補助について

高齢社会の進展に伴い、加齢性難聴者の増加が社会問題になっており80代の方々の9割は補聴器が必要になっていると言われております。

- (1) どれだけの方に補聴器が必要となっているかを把握されているか
- (2) 補聴器の調整が必要となるが、対応をどの様に考えているのか
- (3) 必要とされている方への補助の考えについて、どの様に考えているのか

質 問 1 1

質問者 16番 増 田 葉 子

1 読書環境の現状を問う

読書は、感性、想像力、表現力を豊かにし、時に人生の道しるべとなり、深く生きるための力を与えてくれます。インターネットやソーシャルメディアの普及、スマートフォンなどの情報端末の急速な発展で、市民の情報収集の環境、生活志向が大きく変化する中、公立図書館の役割を改めて見つめ直す時期にきていると考えます。

読書によって培われる読解力の大切さが改めて認識される一方で、文字離れ、活字離れ、読書離れが叫ばれ続けています。新学習指導要領では、学校図書館が大きな役割を果たすことが想定され、また、去年は読書バリアフリー法も成立していることから、学校図書館を含めた市内の「読書環境」がどのような現状なのか、以下、伺います。

- (1) 図書館を設置し、運営する目的を改めて伺う
- (2) 市立図書館のあり方は、現在どのような仕組みで評価されているのか
- (3) 大森図書館が休館中だが、休館中に指定管理者制度の導入について検討していくと以前に答弁があった。現在はどの程度まで検討が進んでいるのか

- (4) 八千代市では、平成27年度末に「市立図書館サービス計画」を策定し、図書館サービスの方向性を市民に示している。読書バリアフリー法も踏まえ、策定する考えはないか
- (5) 学校司書の配置が推進され、教育活動における学校図書館の役割が大きくなっている。市教育委員会では、学校図書館の役割をどのようにとらえ、どのように活用していく考えか
- (6) 各校の学校図書館の蔵書数は、子ども一人あたりの冊数でどうなっているか
- (7) 各校の図書購入予算の推移はどうなっているか
- (8) 学校図書館は今後、どのような場であり方の評価を行っていくのか

2 UR事務所跡地の活用検討について

現在、(仮称)千葉ニュータウン中央駅圏複合施設整備基本計画検討委員会が設置され、施設コンセプトや整備内容の検討が進められており、昨年末には、中央駅前地域交流館2号館を取り壊す方向性が示されていると承知していますが、これまで、どのような議論が積み重ねられてきたのか伺います。

- (1) これまでの検討の経緯を改めて伺う
- (2) 中央駅前地域交流館2号館を取り壊す理由はなにか
- (3) 中央駅前地域交流館1号館をそのまま残す理由はなにか
- (4) 市民のニーズはどのように取舍選択されたのか

質 問 1 2

質問者 17番 松 尾 榮 子

1 市内進出企業等の動向と計画の把握について

千葉ニュータウン事業の終了に伴う短期間の広大な分譲用地で、現在多くの企業進出、住宅建設、新規開業等が続いています。市内のこうした活発な企業動向について、市として把握し、計画的なまちづくりを進める必要があります。そこで伺います。

- (1) グーグル進出計画について
- (2) その他の企業進出計画について
- (3) 新規開業・廃業等の状況について
- (4) 住宅建設・販売等の動向について

2 商業者の地域貢献ガイドラインについて

地域に進出する企業が地域に貢献できるガイドラインを定め、大型店と地域商業者が協働して地域の活性化に取り組む「地域貢献ガイドライン」について伺います。

- (1) 印西市における実績
- (2) 市としての取り組み

3 市民が暮らしやすい生活・衛生環境について

- (1) ごみ処理、墓地・火葬場、し尿処理等の各課題について、印西市は近隣市町との共同で組合を作り事業を進めています。いずれも市民の暮らしに密着する重要課題であることから、令和1～2年度中の状況について伺います。

- ①ごみ処理次期中間処理施設整備
- ②平岡斎場火葬炉の増炉
- ③合葬墓の検討
- ④し尿処理施設の更新

- (2) ごみの不法投棄対策について

- ①産業廃棄物等の不法投棄について
- ②家庭ごみ・弁当殻等の不法投棄について

4 成年年齢の引き下げに伴う課題について

民法の改正により、2022年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられることとなり、18歳成年に各種資格の取得要件や契約等様々な権利が付与される一方、お酒、たばこ等20歳以上に据え置かれるものもあるなど、年齢要件が分かれ複雑な面もあるようです。また悪徳商法による契約被害等も心配されています。そこで伺います。

- (1) 成年年齢の引き下げに関して、行政事務に関わる項目と手続きの準備状況
- (2) 18歳・19歳成人者への具体的内容の周知と契約被害等への対策
- (3) 引き下げ以降の成人式について